

隠岐圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成26年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H26目標	H26実績	達成率
隠岐-1	隠岐(しま)の木 生産拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画制度が改正され平成26年度から区域計画が作成できることとなったことを受け、隠岐島後森林組合では隠岐島内全域で区域計画を作成するため体制を整備し取り組みを開始し、総森林面積の1/5をカバーするなど着実に森林経営計画の作成が進んでいる。 ・隠岐島前森林組合が利用間伐体制の構築に着手したことで、島前地域における木材生産が始まることが期待される。 ・隠岐島後森林組合がコンテナ苗生産を開始するとともに、一部を本年度の植栽に活用し植栽コストの調査を行うなど、再造林に向けた取組が進んでいる。 	木材生産団地からの原木生産量(m ³)	17,500	14,969	86%
			伐採跡地等の再造林面積(ha)	17	19	110%
隠岐-2	隠岐(しま)の木 利用拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・原木増産が進む中、島内製材向け、本土合板向けなどに、円滑にかつ効率的に供給するため、「隠岐(しま)の木出荷共同体」をH26. 3に設立。本年度の協議により、複数船舶との契約及び仕分け・出荷先の振り分けを一元化することを決定し、11月より共同出荷を開始した。 ・「黒心材の商品化」に向けた取組を行い、年度末に県外材木店に製品サンプルを提供した。 ・島内の木材利用は、利用促進活動により、公共事業や町単補助事業において隠岐産材の利用が計画されている。 ・隠岐の島町は、平成26年度において木質ペレット事業の実証分析を行い、事業化に向けた取り組みを進めていくことを決定した。 	製材品出荷量(m ³)	2,500	2,354	94%
			合板等島外出荷量(m ³)	10,200	7,428	73%
			低質材利用量(m ³)	1,000	702	70%
隠岐-3	原木しいたけ振興 プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト推進の前提となるクスギ原木林のデータベース化が完了し、「クスギ林台帳」として関係機関と情報の共有化を図った。この情報を基に、必要なクスギ林の新規造成や既存林の適正な管理を進めクスギ原木の安定供給システムの構築を進めた。また、逐次、情報の更新作業を行った。 ・販売では、農外参入企業の県外販売ルートが安定的確保されてきた。また、JAと農外参入企業の連携も開始され、今後の有利販売に向けた展望が見えてきた。 	乾しいたけ生産量(t)	6.5	4.0	62%
			乾しいたけ販売額(百万円)	23	13	57%
			生しいたけ生産量(t)	25.0	13.3	53%
			生しいたけ販売額(百万円)	35	18	51%
			原木供給量(原木販売量)(本)	80,000	60,000	75%
			新規クスギ造林面積(累計)(ha)	26	30	114%